



2018年
8.12
第1317号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

島根原発3号機稼働につながる適合性申請

県は事前了解「了承するな」

県議団、松江市議団、原発周辺市の市議らが知事要請

島根原発3号機の新規稼働に向けた国への新規制基準適合性申請について、立地自治体の松江市をはじめ、周辺自治体の鳥取県と原発30キロ圏内の出雲、安来、雲南、境港、米子の5市が申請を承認し、周辺県市全てで事前了解の意見が出そろい、島根県の最終判断が迫る中、日本共産党県議団は3日、溝口善兵衛知事に対し、県民の理解と合意がないもとで適合性申請を了承しないよう申し入れました。松江、



安来、雲南の各市議ら8人が参加しました。参加者は「県民の願いは原発稼働反対であり、県政が県民の願いに反して申請を了承すれば県政への信頼を失墜させることになる」と強調。「判断には民意をしっかりと反映させ、県として原発ゼロを決断すべき」と迫りました。(写真)

国民平和行進が県庁訪問

溝口知事が核兵器廃絶署名託す

7月21日に島根県入りした原水爆禁止国民平和行進(富山―広島コース)が23日、県庁を訪れました。

溝口善兵衛知事の核兵器廃絶の署名とペナントや、「米国の原子爆弾により、広島・長崎が壊滅した日本としては、世界に向けて核兵器廃絶を訴えていかなければなりません」とのメッセージが託されました。(写真左)

また、県議会では、糸賀克巳事務局長から事務

参院鳥取・島根選挙区予定候補

福住 英行 さんを発表

日本共産党島根県委員会と同鳥取県委員会は7日、来夏の参院選鳥取・島根選挙区に福住英行氏(42)を擁立すると発表しました。



略歴 ◆1975年、鳥取県西伯町生まれ ◆米子東高校、千葉大学工学部卒業 ◆1999年、日本共産党専従となる。しんぶん赤旗記者を経て2010年、党鳥取県西部地区委員長 ◆現在、党鳥取県常任委員(2017年〜) ◆米子市車尾4丁目在住。家族は妻と1男2女 ◆趣味は音楽鑑賞、演劇鑑賞 ◆尊敬する人はステイブ・ジョブズ。

赤旗囲碁・将棋大会日程

- ★松江地区大会
9月23日(日) 受付9時30分 開会10時
場所: いきいきプラザ島根4F・403
【参加申込】日本共産党東部地区委員会
TEL: 0852-24-2456
- ★出雲地区大会
9月9日(日) 受付9時30分 開会10時
場所: 神門(かんど)コミュニティーセンター
【参加申込】日本共産党中部地区委員会
TEL: 0853-22-4031
- ★江津地区大会
8月26日(日) 受付9時30分 開会10時
場所: 県立少年自然の家
【参加申込】日本共産党西部地区委員会
TEL: 0855-23-1000
- ★益田地区大会
9月23日(日) 受付9時30分 開会10時
場所: 益田市立市民学習センター202/203
【参加申込】日本共産党西部地区委員会
TEL: 0855-23-1000
- ★邑智地区大会
9月2日(日) 受付9時30分 開会10時
場所: 矢上交流センター
【参加申込】邑智地区実行委員会
TEL: 0855-95-1362 井上義信

原爆や原発は負の遺産

民青同盟 戦争体験を聞くつどい

民青同盟県委員会は7月29日、松江市で「戦争体験聞き取りプロジェクト」を開き、市内在住の西尾幸子さん(86)から話を聞きました。10代から30代の12人が参加しました。西尾さんは広島市内の女学生だった13歳のとき、原爆で同級生223人全員が犠牲になったこと



局のみなさんから寄せられた募金を手渡されました。日本共産党の尾村利成、大国陽介の両県議が同席しました。(写真上)

とにふれ、「戦争の真つ只中で育ち、戦争の時代しか知らずに死んでいった」と話し、「原爆は20世紀の負の遺産。21世紀の主人公である若いみなさんの力で原爆や原発をなくしてほしい」と訴えました。

参加者は「祖母が亡くなってから被爆者手帳が出てきて被爆した過去があったことがわかった。話すことができなかった。辛い過去だったのだと思う」「戦時中は治安維持法による監視社会で家族同士でも思っていることを話せなかった。声を上げられる今、行動しないと話さない」と話しました。

鼓動

夏の風物詩となった甲子園での高校球児たちの熱戦が始まった。今年、第100回の記念大会。とはいえ、戦争で野球が「敵性スポーツ」の烙印(らくいん)を押され、5年間の空白の歴史があったことを忘れるわけにはいかない▼あの戦争で甲子園球児55人、全国数千人の球児が犠牲になり命を落とした。1939年の第25回大会で全5試合を完封し、しかも準決勝、決勝をノーヒットノーランで海草中を優勝にみちびいた嶋清一投手もその一人。後輩に「戦争が終わったらプロ野球で一緒にやろう」という言葉を残し、戦死した▼平和であってこそ高校野球だ。一球を投げ、一球を打つ。そして一球に歓喜し、一球に涙する。全力プレーこそ高校野球の真髄であり、魅力でもある。勝利だけがすべてではない。大リーグで活躍するイチロー選手の甲子園は9打数でわずか1安打に終わった。「甲子園だけが目標ではない」と敗北を力に努力して、今日のイチロー選手を築いた▼「高校野球における一点の重みを人生に生かすとは、未来を見つめる中で今日を精いっぱい生きることであり、小さなことを粗末にせず、一つひとつの努力の積み重ねで初心を貫徹することであると私は思う。全国球児へ。苦しいときはあの一瞬、この一瞬を思い出してほしい。これは天理高校で野球部監督を務め甲子園に7回出場し、その後、日本共産党の大淀町議になった故・清水貢さんの言葉だ▼今年も球児たちの全力プレーに心からのエールを送りたい。平和が続く、100年後に第200回大会を迎えられることを願って…。(後)